

神奈川徐福研究会例会（2027年3月18日）

河野通広

1. 説明のテーマ（主題）；藤沢市妙善寺にある徐福子孫の墓

2. 子孫の墓に至る経緯

神奈川日中友好協会の会員5名で慈恵市を訪問（目的は工業開発区の見学）

- ① 慈恵市の職員から、慈恵市には日本人の創設した“徐福記念館”あるが見学してみ
てはと誘いがあり、当方は興味を持ったので訪問見学を依頼した。
- ③ 同市の職員から記念館に電話連絡したら責任者の二人は日本に帰国する為
上海空港に向かっているところであるが、事態を説明し戻って頂くことになったと説明
があった。
- ④ 記念館で須田董事長。田島孝子館長と面会。田島館長は神奈川県（川崎市）の出身と紹
介があったので、河野より“神奈川にも徐福ゆかりの史跡があれば県日中と共同で神奈川
徐福研究会を立ち上げたいものですね”と軽く提案した。田島女史より“具体的に調べて
帰国後お知らせします”との返事であった。
- ⑤ 20日程後に須田さん、田島さんが本郷台の地球プラザ内の県日中事務所に来訪され、“具
体的な史跡がありました”ということで、奥野利雄著《ロマンの人徐福》の中の藤沢市妙
善寺の福岡家累代の墓のごく短い解説文と写真を示された。
- ⑥ 藤沢は近いので早速 妙善寺を訪問し、住職の許可を得て、寺の敷地内の墓地の一面に
ある墓を探す。直ぐにロマンの人徐福に掲載されている墓を見つけ
安堵した。そこへ法要を終えた住職がやって来られたので“和尚さん、これが
例の徐福子孫の墓と言われているものですね”と確認したところ“即刻”違います。それは
現在の福岡家の方々の為の累代の墓です。徐福の子孫の墓というのは此方です。“と、すぐ
近くの場所にある小さな古色蒼然とした墓を示された。私達は早速写真を撮り、後日検討する
ことにした。
和尚さんとの別れ際に“私達はもう少しこの墓のことを調べたいので、福岡家の方を紹介し
て頂けないか”と質問したところ“福岡家の方はこの墓が世間に広く取り上げられることは
好まれないようだし、対応に関しても親族間で種々意見が違うようなので、そっとしてあげた
方が良いでしょう”という事だったので、その後も福岡家の方々との接触は行っていない。

3 徐福の子孫の墓の説明

妙善寺は神奈川県藤沢市藤沢 1-5-3 に在り、日蓮宗の寺で開山は 1271 年という由緒ある寺曆を持つ。住職の案内で目指す墓を確認できた。それは福岡家の墓の区画内の中心にある福岡家累代の墓の左側にあった。私達がこの墓を訪れてから 2 日後に、福岡家の墓地は改修工事入ったが、それに伴い上記の墓の位置は 2 メートルほど移動している。

さて墓のおもて面には

天文二十三年甲寅

肅道日正居士

正月十一日

と縦 3 列に配置されている。天文二十三年は西暦の 1554 年に相当するが、この年の 1 月 11 日に墓が建立されたことが分かる。日本の足利時代の所期の頃である。

裏面には漢字にて 1 行 16 文字の 6 行で計 96 文字が刻まれている。風化や苔や砂泥の付着、破損による墓の表面の一部欠落などで、読み取れぬ箇所もあったが、私なりに理解して、神奈川日中友好協会の会報にて報告しました神奈川徐福会で発表をした。

更に、この碑文について正確を期すため、徐福研究家の池上正治先生に不明な文字の特定と、解釈をお願いした。その業績は、神奈川徐福会研究会で報告され且つ神奈川県日本中国友好協会の会報にも掲載されたが、ここに紹介する。

居士諱肅政称正兵衛其先出於秦徐福
於富士山周麓故子孫皆以秦為姓其以
名秦野者蓋係政肅一族之旧蹟又足以

徐福避始皇之乱航海来我神州而下居
福岡為氏者亦取徐福一字也且近地有
徵為祖先之地矣我子孫其永記勿忘焉

(中抜き下線の 7 文字は欠落で不明であるが池上先生に推定して頂いた)

これを口語訳に直すと次のようになる。居士は諱(いみな)を肅政といい、俗名は正兵衛である。その祖先は秦の徐福である。徐福は始皇帝の乱を避け、航海して我が神州まで来て(船を)下り、富士山の周りの麓に住んだ。そんな訳で、子孫たちは秦を姓とするようになった。福岡を氏とするのは、徐福の一字を取ったからである。近くに秦野と言う地名があるのは、政肅の一族の旧跡である。以上からも、祖先の地であることが分かるというものだ。我ら子孫は、それを永遠に記憶(録)して、忘れてはならぬ。

その後前記奥野利雄先生に「徐福さんと神奈川」という題で 1 文を書いて頂いたが、主な点を抜粋すると次のようになる。

“徐福から 4 代目の福仙が大神宮の神官に任ぜられ代々これを継承し、徐福が書いたといわれる富士古文書や宝物を守護してきた。

三十代福岡徐教のとき富士山の大噴火の際、大官司と共に古文書宝物等を擁護して、共に相模の国高座郡(神奈川県)に移住した。現在も藤沢市の妙善寺には「福岡子孫累代の墓がある。その子孫の福岡平一郎氏が明治 20 年 4 月 26 日に、元祖徐福供養のため熊野新宮市の速玉大社に参詣し、累代家蔵の唐李昌帖 1 冊と木製香焼(但菊水蒔絵)1 個を奉納している。

以上簡単に徐福さんと神奈川県との関係について述べたが徐福さんの子孫の遺跡としてはっきりしているのは日本で唯一藤沢市の妙善寺だけで、2 千有余年に亘る日中友好の貴重な伝承地であると確信しています。”

さてこのように神奈川の地にも徐福に関する史跡があることがわかったので神奈川県日本中国友好教会内に神奈川徐福研究会を発足することにした。代表には田島孝子さんをお願いした。

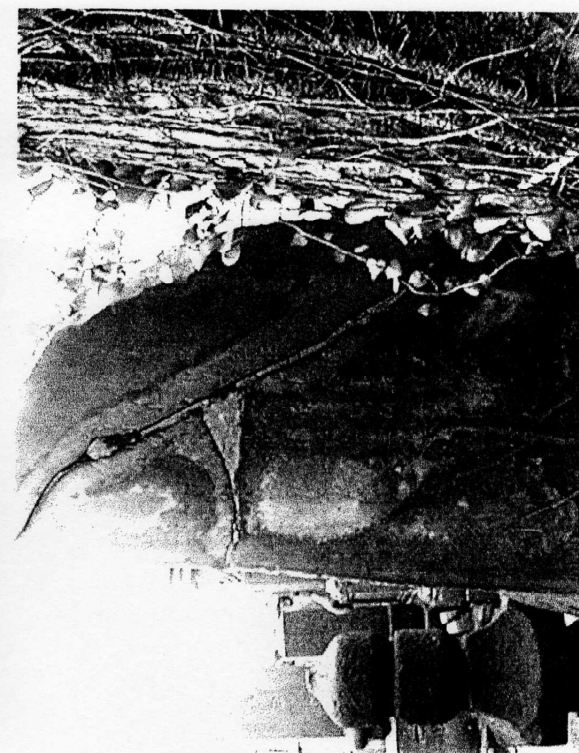
当該徐福の子孫の墓



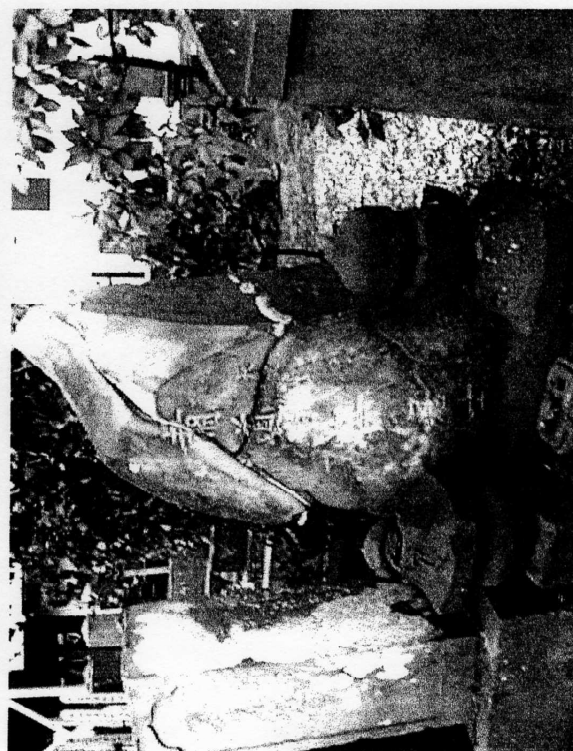
現在の福岡家の墓



徐福の子孫の墓



徐福子孫の墓(裏面・碑文)

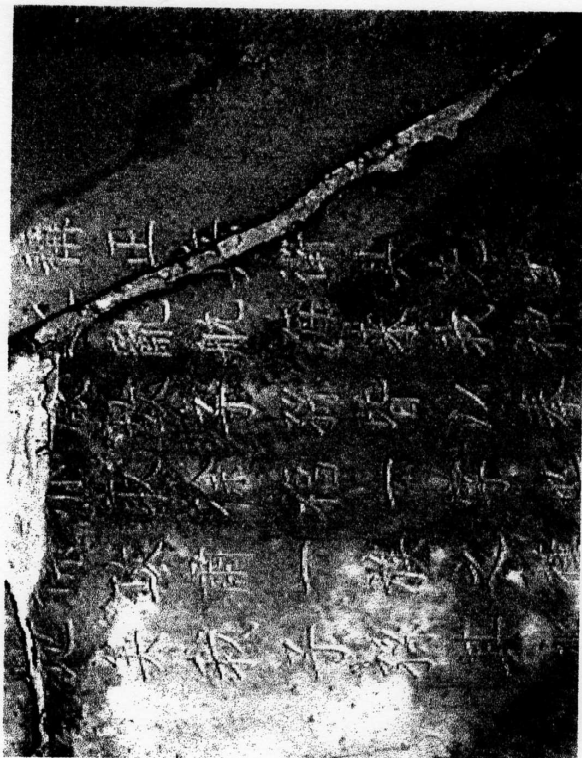


徐福子孫の墓(表面)

碑文の上部



碑文の中部



碑文の下部



徐福子孫の墓(裏面・碑文)



